

「5類」後最多更新

感染前週比7036人増、東北で顕著

厚生労働省が1日発表した新型コロナウイルス感染症の直近1週間（8月21～27日）の「定点把握調査」によれば、新規感染者は前週比7036人増の9万3792人と、5類感染症への移行（5月8日）後の最多を更新しました。2週連続の一方、同システムに

増加です。また、「医療機関等情報支援システム」(GIMS)によれば、集中治療室(ICU)の同感染症の入院中患者（7日間平均）も21人増の218人と、移行後の最多を更新しました。（いずれも速報値）

よる新型コロナの直近1週間の新規入院患者は前週の速報値より366人減の1万3501人で、微減ながら横ばいを続けています。今回の定点調査によれば、新規感染総数の最多は神奈川県（6443人）で、次いで東京都（5956人）、埼玉県

5844人、千葉県1888人、北海道4275人などとなっています。定点医療機関当たりの平均では、岩手県が最多の31・7人のほるなど、東北地方で多くなっています。一方、かつて猛威を振るっていた沖縄県は平均8・5人と全国で最

少でした。

感染報告が最も多い年齢層は10歳未満の1万9014人でした。

新規感染者が10週連続で増加した福島県は、感染拡大が続けば医療機関への負荷が高まるとして、マスクの着用などの基本的感染予防対策とともに、発熱やのどの痛みなどがある場合は、「出勤や登校を控えるなど外出に留意するとともに、検査キットによる自主的な検査を」（内堀雅雄知事、8月29日の記者会見）と呼びかけています。